

地域おこし協力隊が見つけた /

しらたかの鉄人! 達人!



①使いやすいように工夫を施された屋根葺きの道具（譲り受けたものと手作りのもの）②不安定な場所での作業。屋根全部を一周するのに7年かかる③一番の難関場所。足場の組み方が難しく、葺き替えも難しいところ



「屋根葺き」

高橋 忠勝さん（萩野・75歳）

「故郷の風景でありたい」

茅屋根の屋根葺きを始めたのは15〜16年前のこと。「茅屋根を葺く人がいなくなったから自分で屋根を解体して、見よう見まねで葺いたのがきっかけ」。忠勝さんは自宅の茅屋根を毎年部分ごとに、少しずつ葺き替えています。

青草が枯れるころに茅場で茅を刈り、その場で春先まで乾燥。春先になると、茅を運んできて扱（こ）き、茅を整えます。屋根葺きの道具は、以前忠勝さんの家の屋根葺きをしていた職人さんから譲り受けたものを愛用しているそうで、中には忠勝さんの手作りの道具もありました。

私もこの夏、実際に茅の屋根葺き体験をしました。不安定な場所での作業と意外と力のある作業にへとへとになったことを思い出します。茅集めから、足場組みまですべて一人で行っている忠勝さんにパワフルさを感じました。ぜひ弟子にしてほしいものです。

「夏は直射日光を浴びながら屋根を葺くから暑くて大変。冬は寒いし、雪下ろしをしなくちゃいけない」と苦労もあるそうです。それでも忠勝さんは茅屋根を葺きます。「この家を見て『故郷に帰ってきたなあ』って、みんなにとつての故郷の風景になれば…」とうれしそうに話します。

「できあがっていくのを見るのはやっぱり一番おもしろい。最後の仕上げなんて鼻歌いながらだ」と忠勝さん。大変なお仕事も感じるけれど、故郷を守っていくことにつながっているのかもしれない。

地域おこし協力隊
茅野 唯さん

好評につき増刷! /

しらたか料理レシピ
「ごっつおうしらたか」

「広報しらたか 11月12日号」で紹介した料理レシピ「ごっつおうしらたか」につきまして、好評につき配布開始から数日で配布予定数に達したため、お受け取りを希望されていた皆様には、大変ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

そこでこのたび、レシピ集を新たに500部増刷いたしました。数量限定となりますので、ご希望の方はお早めに下記の場所でお受け取りください。

●設置場所 各地区コミュニティセンター、白鷹町役場商工観光課、白鷹町観光協会

●配布開始 12月15日（金）～

【問い合わせ】商工観光課交流推進係 ☎85-6126